

ハイパーソニック・サウンドを体感する

2014年3月30日(日)

13時30分開場 14時開始 16時終了予定

放送大学 文京学習センター 大講義室

(東京都文京区大塚3-29-1、地下鉄茗荷谷駅下車3分)

<プログラム>

- レクチャー「ハイレゾ音響とハイパーソニック・エフェクト」
麻倉怜士先生(デジタルAV評論家、津田塾大学講師)
- レクチャー「ハイパーソニック・エフェクトが拓くメディアの新しい可能性」
仁科エミ放送大学教授
- デモンストレーション「ハイパーソニック・サウンド体験」
超高周波を含む音と含まない音とはどう違うのか? 極上のハイパーソニック・サウンドを、最新鋭の再生システムで体感していただきます。

<趣旨>

熱帯雨林の環境音やある種の民族楽器音などのなかには、可聴周波数上限(20キロヘルツ)を大きくこえ複雑なゆらぎ構造をもった豊富な超高周波成分を含む特別な音=<ハイパーソニック・サウンド>が存在します。この音を聴くと、脳の要衝、中脳・間脳を拠点とする<基幹脳ネットワーク>が活性化し、自律神経系、内分泌系、免疫系、情動感性系、報酬系などを司る脳機能が一丸になって高まることを私たちは見出しました。それは、身体の健康と心の豊かさをあわせて実現します。これらを発見した私たちは、一連の現象を<ハイパーソニック・エフェクト>と名付けました。

ハイパーソニック・エフェクトが賦活する基幹脳ネットワークは、その働きが衰えるときさまざまな現代病の原因となる神経組織を少なからず含んでいます。そのため、ハイパーソニック・エフェクトによって現代病を防御し、健康・快適な社会の創造に貢献することが期待され、その応用・実用化が模索されています。

ところがそのためには、これまでのオーディオ技術の射程をはるかにこえる、きわめて特殊で高額な研究開発用クラスの装置が必要となります。現在の技術水準からすると、それらは「高嶺の花」に他なりません。とりわけ、不可欠な超高周波を再生するトランスデューサーや、高複雑性超高周波を含むコンテンツの開発が、厳しいハードルとなって立ちはだかっていました。そこで、ハイパーソニック生命文明協議会では、これらの限界を突破し実用化への道を拓くことを目的にさまざまな研究開発を推進しています。たとえば、必須でありながら開発が難航していたハイパーソニック・サウンドシステムとコンテンツの開発に取り組んできました。

一方、オーディオ領域では、CDよりも高品質高密度のオーディオファイルをインターネットを介して配信する＜ハイレゾリューション・オーディオ（ハイレゾ）＞関連技術が急速に進展し、一種のブームになってきました。それらハイレゾ規格の中にはハイパーソニック・サウンドを記録できるものもあり、今後の発展によってはハイパーソニック・エフェクト応用に新しい展開がもたらされる可能性が出てきました。

そこで今回の大橋道場番外編では、まず、わが国を代表するデジタルAV評論家としてハイレゾ音響の普及を先導しておられる麻倉怜士先生をお迎えし、CDや一般的な配信音楽からハイレゾ音響へというオーディオ世界の流れについて実際に音を聴かせていただきながらお話を伺います。次いで、ハイパーソニック・エフェクトとその背景にある現代文明の問題について、極上のハイパーソニック・サウンドをご体験いただきながら読み解く機会を用意しました。

ハイパーソニック・エフェクト研究の最前線をぜひともご体感いただきたく、ふるってご参加くださいますようご案内申し上げます。

＜参加申し込み・お問合せ＞

参加ご希望の方は電子メールにて3月27日までにお申込みください。

(会場の都合で、満席となりましたら締め切らせていただきます)

電子メール：nishina@ouj.ac.jp

